

2021年4月より東部医療センター・西部医療センターが、本学の医学部附属病院になりました。

NEWS LETTER

名古屋市立大学男女共同参画推進センターニュースレター

発行

名古屋市立大学男女共同参画推進センター
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL : 052-853-8577
E-MAIL : sankaku@sec.nagoya-cu.ac.jp
http://www.nagoya-cu.ac.jp/about/gender/



Vol.22
2022.Mar.

名古屋市立大学男女共同参画推進センター長からのメッセージ

男女共同参画推進センターでは、男女がお互いに人権を尊重し、個人が性別による差別的扱いを受けることなく、誰もが積極的に力を発揮でき、ワーク・ライフ・バランスの実現できる環境整備に取り組んでいます。2021年4月1日、東部・西部医療センターが大学病院となり、名市大に3つの大学病院が誕生しました。病床数は国公立大学で全国最大規模です。

新型コロナウイルスの影響は長引いており、人が多く集まる会議や研究会・学会だけでなく、学生の講義もオンラインで行われることが増えました。これまで家事や育児、介護等で自由に学会に参加できなかった方々にとっては、非常に参加しやすい形式となり、これまでにない変革が起きたと思います。

センターとしては、本学のすべての教職員と学生が男女共同参画に対してさらなる理解を深め、仕事・学修を含めたそれぞれの生活が充実するように、側面からサポートできるような事業を今後も展開していきたいと考えています。会議や事務作業等をできる限り効率化し、より働きやすい環境を作るために、今後はポストコロナ時代を見据え、新たな事業に取り組んで参りたいと思います。なお、同センターの事業内容につきましては、大学のHP等で詳細に報告しております。そちらも合わせてご覧いただけますようお願い申し上げます。



センター長 窪田 泰江
(看護学研究科教授・学長補佐)

男女共同参画セミナー オンライン(Zoom)開催/オンデマンド配信

「仕事と介護の両立」～いまから始める準備・働き方の見直し～

企業等の働き方改革を知ろう!
(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)

12月23日に男女共同参画セミナーを開催し、学生・教職員あわせて97名の参加となりました。講師として、民間企業・医療法人等組織・人事制度等のコンサルティング・研修に多数従事されている、米村紀美氏(女性活躍推進・ダイバーシティマネジメント戦略室)をお迎えしました。

セミナーでは、20代含む幅広い年齢層が仕事と介護の両立をしている現状から、無理なく持続可能な両立を目指すために、介護者の両立事例や職場での取組み事例を交えながら、持続可能な働き方への準備や柔軟な働き方へのマネジメント(ジョブアサイン・カバー体制等)の必要性をご説明いただきました。また、当事者のみが両立方法や支援範囲を組み立てるのではなく、周囲の平時からの備えと精神面での支え、自身の健康管理の重要性もお話しされました。

セミナー後は「介護は遠い話だと思っていて詳しく知らなかったが、今回詳しく知ることができて、両親にも教えようと思いました」(学生)「仕事をしながら介護を始めるための事前準備をしっかり学んでおくと、仕事を諦めずに両立できると知ってよかったです」(教職員)等の感想が寄せられ、誰もが当事者意識を持ち、各自の置かれた立場で両立を考える貴重な機会となりました。



セミナーのチラシ



セミナー講師講演



NEWS LETTER
Vol.22
CONTENTS

P1 ●センター長からのメッセージ
●男女共同参画セミナー

P2 事業報告

- 学生と研究者の懇談会
- ワーク・ライフ・バランス講演会
- 学内WEBアンケートの実施(本学教員対象)

●P3 事業報告(続き)

- 研究支援制度(利用者の声)
- 教養教育科目「大学特色科目」の紹介

P4 事業報告・お知らせ

- ワーク・ライフ・バランス相談室
- 各保育所のご紹介(さくらんぼ保育所・ぼっぼ保育所・くさのみ保育所)

REPORT 事業報告

学生と研究者の懇談会

オンライン(Zoom)開催

10月27日に、学生と研究者の懇談会を開催し、学生と教員あわせて、昨年度の参加者数を大きく上回る24名の参加がありました。

前半は、少人数(教員2名×学生5~6名)のグループトークを実施し、自己紹介と教員からの話題提供後、意見交換を30分行いました。

後半は、各グループトークの内容を参加者全員で共有し、教員への質問と意見交換を行いました。研究者の仕事についての素朴な疑問から、教員のワーク・ライフ・バランス、労働形態や男女共同参画をめぐる日本と海外の違い、コロナ禍での生活の変化等、様々な質問や意見が飛び交い、和気あいあいとした雰囲気の中で、時間が足りないと感じるほど大いに盛り上がりました。

参加者からは「想像していた以上にとっても勉強になることを教えていただけて楽しかったです」「他学部の先生と貴重な交流する機会をもらえたので嬉しかった」等大変好評で、学生と教員と一緒にワーク・ライフ・バランスや男女共同参画について考える貴重な機会となりました。



懇談会のチラシ



記念撮影

ワーク・ライフ・バランス講演会

オンライン(Zoom)開催/オンデマンド配信

1月20日にダイバーシティ推進本部主催でワーク・ライフ・バランス講演会をZoomによるオンラインで開催し、学生・教職員・一般あわせて100名が参加しました。

講師として、奈良県立医科大学障害者雇用推進マネージャーの岡山弘美氏を招へいしました。岡山氏は、平成27年に障害者雇用推進係が設立された時から、障がい者の雇用と定着に取り組んでいます。

講演では、障害者雇用推進係の取組内容の紹介と障がい者職員3名の対談が行われました。講演後、障がい者職員38名とのコミュニケーション、就労による生活の変化と就労意欲の継続、健常者職員の人数と人事異動の対応、疾患を持つ障がい者職員に対して留意していること、障がい者雇用開始時の勉強と準備等の質問がありました。それらの質問に対して、岡山氏と障がい者の方々の方がわかりやすく回答してくださいました。

講演後のアンケートでは、「障がい者職員の話が参考になった」「具体的な事例を知ることができた」「障がい者との信頼関係が大切」等といった感想が寄せられました。



講演会のチラシ



講演会講師

学内WEBアンケートの実施(本学教員対象)

男女共同参画推進に関する意識・実態調査として、本学教員対象に「WEBアンケート」を実施しました。貴重なご意見・ご回答は、本学の就業環境整備・改善に関する検証資料として有益に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

- 【目的】 本学の女性研究者支援や男女共同参画、ワークライフバランスに関する各自の意識や実態を把握し、課題等を明らかにし、今後の施策に反映していくため
- 【内容】 女性の活躍推進、有給休暇、育児や介護・看護と仕事の両立等、男女共同参画に関わる重要課題について、全32問(選択肢によっては20問)のアンケート調査
- 【期間】 令和3年12月13日(月)~1月16日(日)(期間延長)
- 【対象】 本学の在職教員(771名)



学内WEBアンケートのチラシ

研究支援員制度(利用者の声)

育児、介護等により研究時間が限られている女性研究者の研究活動を維持・促進することを目的として、毎年度、女性研究者に研究支援員を配置しています。令和3年度は女性研究者3名が採択されました。制度をご利用いただいた皆様のご紹介をします。

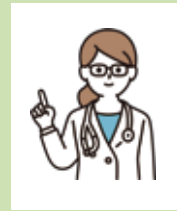
芸術工学研究科 産業イノベーションデザイン 講師 フィルフォヴァ

コロナ禍で非常に困難な状況が続く中、研究プロジェクト進行に必要な支援だけでなく、研究者・支援員がともに専門性を高める素晴らしい機会を得ることができました。支援員の積極的なサポートにも感謝しています。



医学研究科 産科婦人科学 病院助教 伴野

研究員支援制度を利用させていただきありがとうございました。子育てをしながら、毎日の臨床診療の合間に研究を行っている私にとって、とても有用な制度でした。支援員達のいい刺激になっているとなお嬉しいです。



令和4年度4月から利用者の募集を開始します。多数のご応募をお待ちしております。

教養教育科目「大学特色科目」の紹介

男女共同参画推進センターでは、学生が社会的性差(ジェンダー)と平等について理解し、考え方や行動に生かすことができるように、平成24年度から「大学特色科目」として、前期と後期に1科目ずつ開講しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、様々な形態(オンラインやオンデマンド、課題研究型等)で講義を中止・延期することなく実施しました。

前期「地域社会で活躍する女性」



講義の様子

ジェンダーについて総合的な知識、情報を得るとともに、企業や自治体における男女共同参画への取り組みや女性経営者たちの経験を通して、社会における新しい働き方を学ぶ科目です。ジェンダーの固定的役割にとらわれることなく、柔軟な発想と多様性の尊重により、企業や自治体における男女共同参画をふまえた働き方を考える機会となりました。

後期「ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティ」



グループワークの成果の一例

名古屋市大の7研究科と大学病院の教職員が理系・文系という学問の多様性を超えてジェンダーについて多面的に講義を展開しています。学生はその学びをもとに、ジェンダーバランスとワーク・ライフ・バランスの観点から考えた望ましい組織についてグループワークを行いました。

第1回 (4/16)	ダイバーシティ推進本部 本部長 明石恵子	ガイダンス
第2回 (4/23)	名古屋大学大学院 法学研究科 教授 田村哲樹	ジェンダー論
第3回 (4/30)		男性の家庭参画
第4回 (5/7)	名古屋市役所スポーツ市民局 市民生活部男女平等参画推進室	〔課題研究〕 名古屋市の男女共同参画
第5回 (5/14)	名古屋市役所総務局職員部 人事課	名古屋市における 女性の活躍(1)
第6回 (5/21)	名古屋市立車水保育園 園長 温 優子	〔Zoom〕名古屋市における 女性の活躍(2)
第7回 (5/28)	株式会社エステム 代表取締役社長 塩崎敦子	〔Zoom〕企業における 女性の活躍(1)
第8回 (6/4)	社会保険労務士法人名南経営 特定社会保険労務士 宮武貴美	〔Zoom〕企業における 女性の活躍(2)
第9回 (6/11)	リゾートトラスト株式会社 人事企画部 CSR推進室 吉田幸代	〔Zoom〕企業における 女性の活躍(3)
第10回 (6/18)	中北薬品株式会社 マネージング・ストラクター部 三上裕子	〔Zoom〕企業における 女性の活躍(4)
第11回 (6/25)	一般社団法人中部 SDGs 推進センター 副代表理事 百瀬則子	〔Zoom〕企業における 女性の活躍(5)
第12回 (7/2)	株式会社キャリアビジョン 代表取締役社長 野村恵美子	企業における女性の活躍(6)
第13回 (7/9)	特定非営利活動法人 参画プラネット 常任理事 重原惇子	男女共同参画の推進
第14回 (7/16)	ダイバーシティ推進本部 本部長 明石恵子	全体討論: グループワーク
第15回 (7/23)	男女共同参画推進センター センター長 窪田泰江	全体討論: グループワーク発表

第1回 (9/24)	ダイバーシティ推進本部 本部長 明石恵子 名古屋市人権施策推進室	〔Zoom+課題研究〕ガイダンス/ 同和問題(部落差別)の正しい理解
第2回 (10/1)	理学研究科 教授 鎌田直子	〔Zoom〕 ジェンダーと科学
第3回 (10/8)	医学研究科 教授 植木美乃	〔Zoom〕医療における ワークライフバランス
第4回 (10/15)	薬学研究科 講師 築地仁美	〔Zoom〕大学におけるダイ バーシティ:世界との比較
第5回 (10/22)	病院看護部 看護師 古川陽介	男性看護師から見たダイバーシ ティ-看護における男性・女性の協力
第6回 (10/29)	病院薬剤部 病院助教 堀田康弘	仕事人と家庭人の両立
第7回 (11/5)	看護学研究科 教授 堀田法子	子どもの人権と児童虐待
第8回 (11/12)	看護学研究科 准教授 杉浦和子	就労女性の健康支援
第9回 (11/19)	芸術工学研究科 教授 鈴木賢一	ダイバーシティとユニバー サル・デザイン
第10回 (11/26)	経済学研究科 教授 山本陽子	ワークライフバランスと 企業業績
第11回 (12/3)		職業における ダイバーシティ
第12回 (12/10)	人間文化研究科 准教授 宮下さおり	職業と家庭生活の調和 -オランダモデル
第13回 (12/17)	経済学研究科 教授 藤田菜々子	少子化とワークライフバラン ス-1930年代のスウェーデンの経験
第14回 (1/7)	ダイバーシティ推進本部 本部長 明石恵子	全体討論: グループワーク
第15回 (1/21)	男女共同参画推進センター センター長 窪田泰江	〔課題研究〕男女共同参画 推進センター企画への参加

ワーク・ライフ・バランス相談室



〔※2021年4月より、ワーク・ライフ・バランス相談は外部委託事業となりました。
相談員は引き続き、7年間にわたり本学で従事された木下氏(シャインスピーク代表)になります。〕

お困りごとはありませんか? ワーク・ライフ・バランス相談員が悩みごと(仕事と家庭生活の両立、妊娠・出産・子育て、介護、研究室や職場の人間関係等)の相談をお受けします。原則として、ご本人が希望しない限り、個人情報等はどこにも提供いたしません。安心してご相談ください。

問い合わせ・予約先

ワーク・ライフ・バランス相談員 木下 薫

✉ ncu-wlb@shinespeak.page

☎ 090-6397-8826



LINE QR コード

各保育所の紹介

本学では、男女共同参画推進の趣旨を踏まえた労働・研究環境等の整備のための施策のひとつとして、現在は3か所の学内・院内保育所を各自運営しています。

市立大学・病院
(定員70名)



さくらんぼ保育所



コロナ禍の中で、例年であればクラス合同で行なう取り組み〜クリスマス会や節分会をクラスそれぞれで行なうことになったり、また親/子ども/職員が一緒になって楽しむ餅つき会も中止になったりと残念なこともあります。さくらんぼの子ども達は相変わらずに元気に過ごしています。クリスマス・プレゼントのおもちゃや絵本を楽しみながら、サンタさんとトナカイさんのことを今でもお喋りしています☆
残り一か月と少しの今年度、子ども達との時間を大切にしていきたいと思っています。



ぽっぽ保育所



ぽっぽ保育所の1日 〜クッキング編〜

「年明けうどん」をご存知ですか。純白で清楚なうどん、また太くて長いことから長寿を祈る縁起物として年初に食べると良いとされています。今年はいどん作りに挑戦しました。

調理師が小麦粉からうどんになる様子を実演し、衛生面に配慮して、子どもたちは「こねる」「踏む」「のぼす」「切る」といった作業を体験しました。

自分で作ったうどんは特別に美味しかったようで、いつも以上に「おかわり!」とたくさん食べていました。



東部医療センター
(定員33名)

西部医療センター
(定員45名)



くさのみ保育所

「丈夫なからだと豊かな心」を保育の軸に据え、その基礎となる「食」と「あそび」を大切に、産休明け児からの保育をしています。赤ちゃんのクラスからも「マンマ!マンマ!」と食べるのが嬉しい声が聞こえてきます。また、お友だちと関わることで「一緒に嬉しい」「お友だち大好き!」の気持ちが育っています。

コロナ禍の中で、つながることが難しいですが、換気や手洗いなど、感染対策をしつつ、今できることを探りながら、おとなも子どもも育ちあっています。



2022年3月1日現在、本学の女性教員比率は **21.9%** です。

令和3年度学校基本調査より、
国公立大学全体は20.7% (5月1日現在)